

2024年5月12日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「安心していきなさい」

聖書：ルカによる福音書7：36～50

ルカの描くイエスは、「旅するイエス」と言われる。50節の「行きなさい」は、原語で「旅立つ」という意味を持つ。ちなみにこの原語はマルコ福音書では3回しか使われていないが、ルカでは51回使われている。また8章1節の「旅」も福音書ではルカだけである。旅するイエスの足はどのような“足”であったか？ イザヤ書に「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる」(52：7)。ルカの「旅するイエス」の足はそのような意味を持って記しているのであろう。

イエスはファリサイ派シモン家に招かれた。するとそこに「罪深い女」と称される女性が入って来た。この「罪深い女」とは何か？ 当時、女性は一人では生き辛い社会であった。この女性は未亡人と思われる。夫に先立たれたか？ 結局生きる為には人がやらない仕事をする。「皮職人、葬儀人、看護人、娼婦・・・」など。そういう女性を「罪深い女」と区別された。そして自らもこの社会の構図から自分は罪人であると卑下する。自分自身を見下げてしまう社会の構図がそこにある。

イエスの旅には十二弟子のみならず、さまざまな「婦人たちも一緒であった」とある。それは付けたしではない。むしろルカ福音書は、キリストの福音の源に女性の存在を記す。降誕物語（マリア、エリザベト）、受難物語（「婦人たちは遠くに立って・・・見えていた」23：49）、復活伝承（マグダラのマリアを初め複数の婦人たちに最初に知らされた）。

イエスが「罪人の女」と称される女性に、「あなたの罪は赦された・・・安心して行きなさい」と言われたのはどういうことだったか？ 「安心」とは「平和」とも訳す。社会の構図が平和を脅かし、女性や子ども、病、障がいを持つ者が生き辛い社会において、“平和へと旅立ちなさい”という。「旅立ち」とは「生涯を生きる」こととも言えるが、イエスはそのような女性たちに、「罪深い女」とは呼ばせない。そして「安心して“生き”なさい」と言ったのではないか？ それはイエスが伴う「旅」だからでる。（神谷）